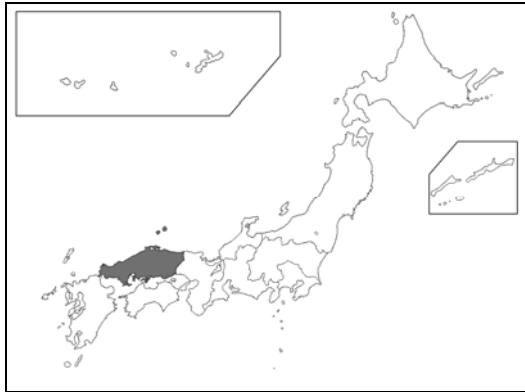


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

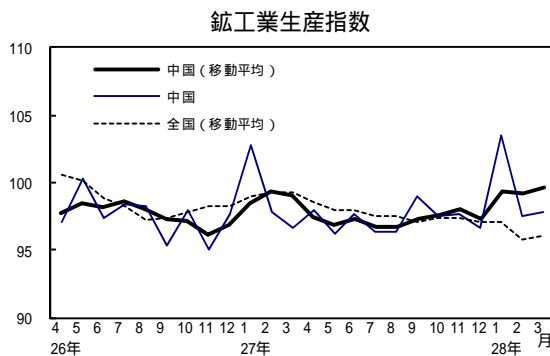
前回調査からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

1～3月期には、輸送機械は、軽乗用車を中心に年度末に向けての増産があったこと等から増加した。化学は、工場での製造停止の影響などから減少した。はん用・生産用・業務用機械は、国内発電所向けが増加した。鉄鋼は、海外市場でやや市況が戻っているものの、おおむね横ばい。電子部品・デバイス、海外向けの車載部品、スマートフォン部品に動きがみられ、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	23.5	2.5	2.5	12.3	8.3	3.3
化学	16.4	2.0	0.8	2.9	2.5	5.9
はん用・生産用・業務用機械	11.2	0.3	10.1	25.6	11.3	20.0
鉄鋼	7.7	2.3	0.1	2.2	3.5	2.9
電子部品・デバイス	7.1	0.7	5.4	5.6	8.7	13.8
鉱工業	100.0	0.1	2.4	7.1	5.8	0.3

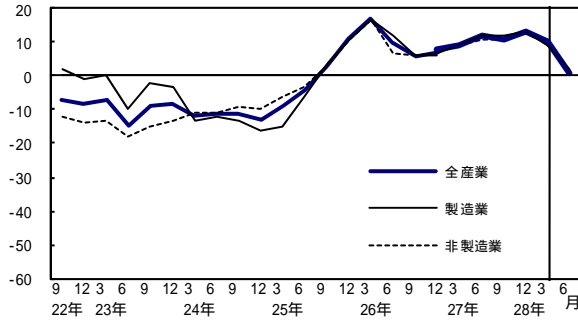
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が縮小しており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

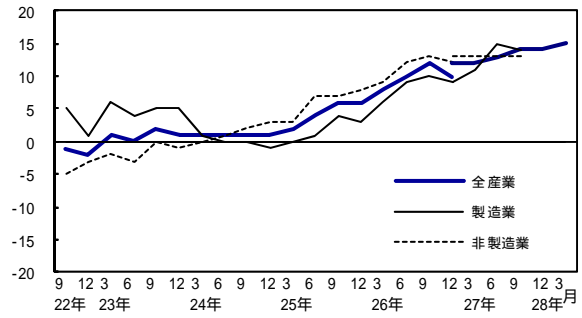
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



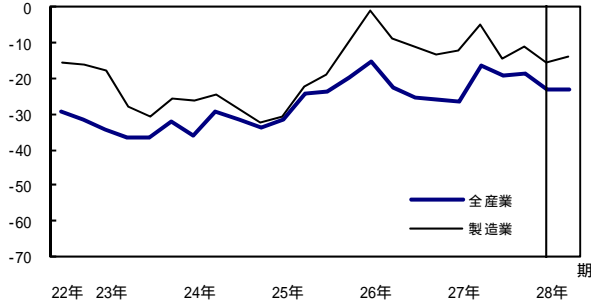
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



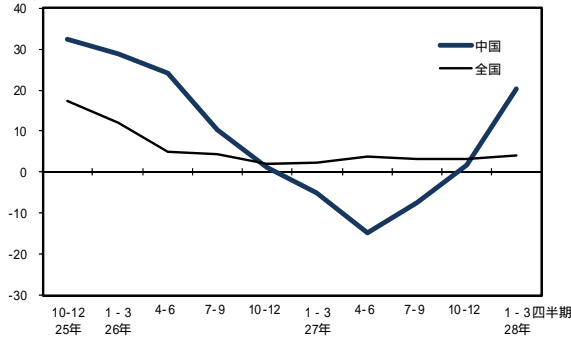
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「主要取引先の新年度当初の増産計画に伴う受注量の増加見通しから一転し、国内景気に止まらず中国や東南アジアの景気後退感で輸出が伸び悩んでおり、受注量の下方修正を余儀なくされている(化学工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績見込み	28年度計画
全産業	8.2 (5.4)	3.0
製造業	0.5 (5.5)	6.3
非製造業	19.3(5.2)	1.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.2%増、2月は同0.9%減、3月は同2.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額

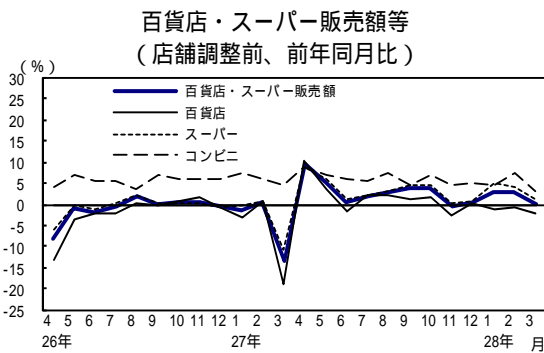
百貨店は、1月は、中旬以降の寒波の影響から冬物衣料は低迷し、前年を下回った。2月は、飲食料品ではバレンタイン商戦が好調であったが、不安定な気温の影響から衣料品では苦戦し、前年を下回った。3月は、気温の変動が大きかった影響から春物衣料が低迷した。一方、改装効果等により、飲食料品は好調であったが、全体としては前年を下回った。

スーパーは、寒波の影響等から衣料品が苦戦したものの、精肉や惣菜、ベーカリーの販売は好調であったことから、前年同期を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、46.1となり前月より0.7ポイント低下した。

「4月の販売状況は前年の80%と大変厳しい状況である(乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

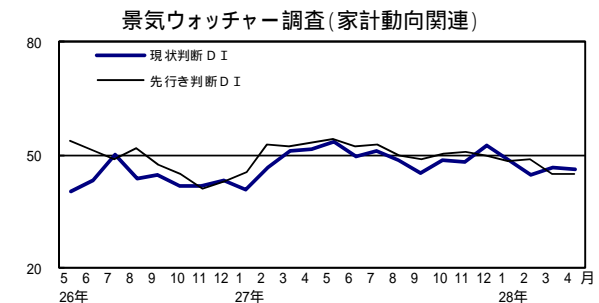
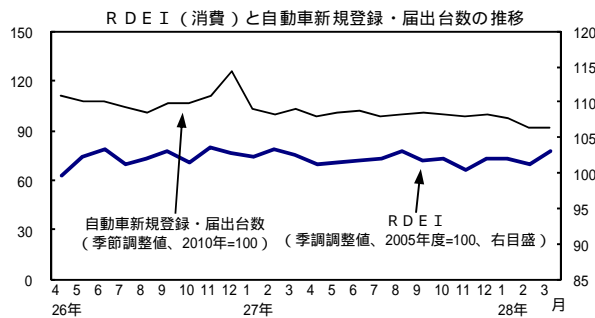


	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.7	0.2	0.9	2.0
百貨店・スーパー(*2)	2.0	3.1	2.8	0.2
百貨店(*2)	1.4	1.3	0.5	2.1
スーパー(*2)	3.4	5.0	4.2	1.1
コンビニ(*2)	5.0	4.7	7.3	3.3
乗用車(*3)	8.0	6.2	7.5	9.5
(季節調整値)(*3)	5.4	1.6	5.6	0.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

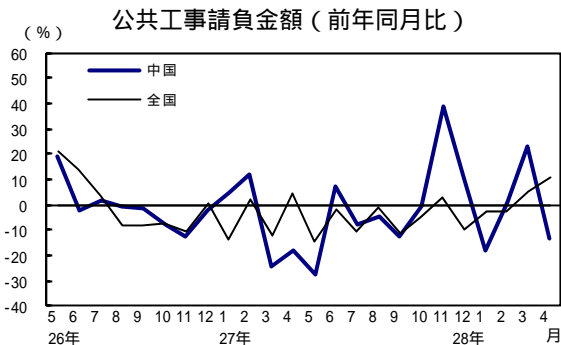
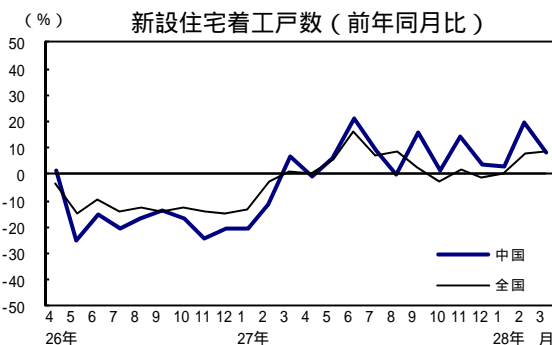
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、増加している。

持家、貸家、分譲ともに前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

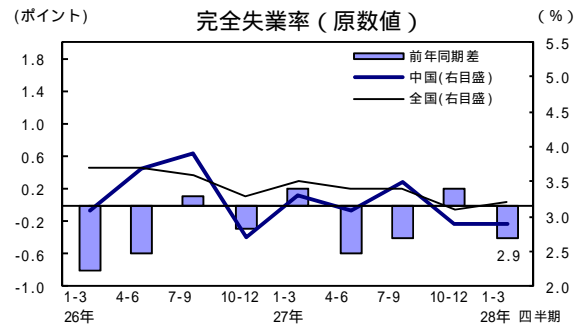
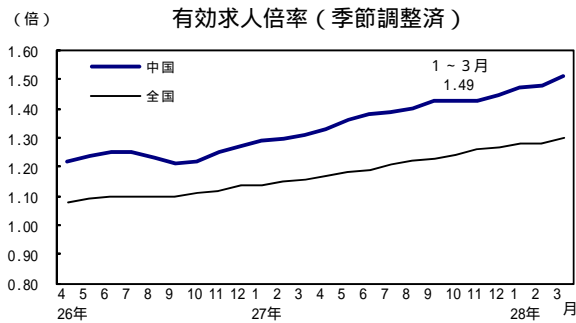


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連 (現状)]

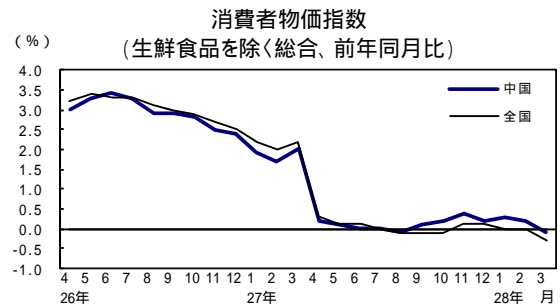
「周辺企業から人手が足りないとの声が強まっている。特に飲食店などサービス業関係から、時給や給料底上げでコストアップになってもまず人手が欲しいとの声が目立っている (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数	92	87	85	91	22
(前年比)	16.4	19.4	20.6	23.5	24.1
負債総額	163	91	131	189	35
(前年比)	0.1	46.4	29.7	41.8	36.3



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[合計 (景気判断において熊本地震に言及したもの)]

<現状>

・熊本地震の影響で工場の稼働が止まり、新車が出荷できず、販売が前年の60%まで落ち込んでいる (乗用車販売店)

<先行き>

・熊本地震の影響とゴールデンウィークの終了で、今後の外出が控えられることが懸念され、景気の上昇が期待できない (テーマパーク)

景気ウォッチャー調査 (合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

